

【8月の気象】

▷ 8月は太平洋高気圧に広く覆われて晴天の暑い日が続きます。特に上旬は年間で最も気温が高くなる時期です。農作物の管理や熱中症に十分注意してください。気象庁と環境省は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される場合に、暑さへの「気づき」を呼びかけ国民の熱中症予防行動を効果的に促す「熱中症警戒アラート」の運用を、令和3年4月28日（水）から開始しています。熱中症予防に、ぜひご利用ください。

「気象庁ウェブサイトにおける熱中症警戒アラートのページアドレス」↓

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#element=heat&contents=information>

▷ 強い日射によって地面付近の空気が暖められて上昇気流が強まると、積乱雲（入道雲、雷雲）が発生・発達し、局地的に急な強い雨や落雷、竜巻などの激しい突風をもたらすことがあります。落雷や竜巻などの激しい突風が予想される場合に、気象台では雷注意報や竜巻注意情報を発表して注意を呼びかけます。気象情報で「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」といった言葉が使われていたら、天気の変化に注意してください。雷の音が聞こえたり、黒い雲が近づいたり、急に冷たい風が吹いてきたときは、発達した積乱雲が迫っているサインです。屋外にいる場合は、頑丈な建物など安全な場所へ速やかに避難してください。河川や水路等、急な強い雨による増水にも注意が必要です。

雨雲の動き・雷活動度・竜巻発生確度 → <https://www.jma.go.jp/bosai/nowc>

竜巻注意情報の発表状況はこちら ↓

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=tornado>

▷ 8月は年間で最も多く台風が発生し、日本へ接近する時期です。平年値（1991～2020年）によると、8月は、台風の発生数が5.7個、日本への接近数が3.3個、四国への接近数が0.9個です。台風になる前の熱帯低気圧の発生情報や台風情報を積極的に入手し、早めの台風対策にお役立てください。

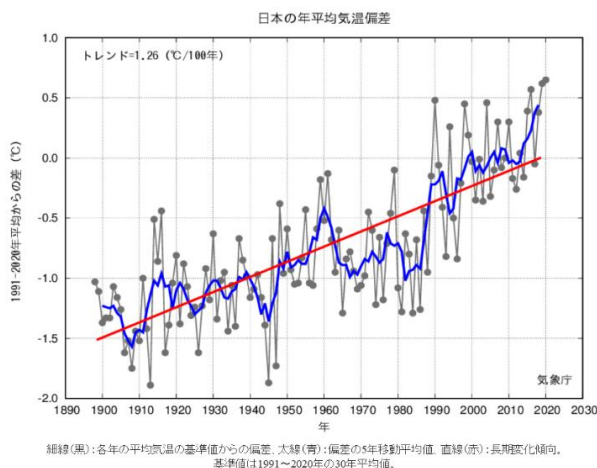
熱帯低気圧の発生情報や台風情報はこちら → <https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=typhoon>

台風に関する詳細な説明はこちら → <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/typhoon/index.html>

【気象用語】「地球温暖化」問題とは

私たちの社会はそれぞれの地域の気候を背景にかたちづくられています。その気候が、地球規模で、私たちが経験したことのないものになりつつあります。現在の地球は過去1400年で最も暖かくなっています。

下の図は、日本の年平均気温と基準値（1991～2020年の30年平均値）との偏差を表したグラフです。青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向を示しています。2020年の日本の平均気温の



基準値からの偏差は+0.65°Cで、1898年の統計開始以降、2019年を上回り最も高い値となりました。日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.26°Cの割合で上昇しています。特に1990年代以降、高温となる年が頻出しています。

また、四国地方の1か月予報（7月24日～8月23日）では、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温の高い確率は50%となっており、今年も暑い夏となりそうです。

健康管理や農作物の管理など、昔とは違う状況がベースにあることを前提にした対策が必要です。

詳しくは、気象庁の気温・降水量の長期変化傾向を確認してください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>